

町のみんながベルマークを応援

北海道・佐呂間町の「協力隊」活動



①左から2番目が山保浩之さん。町民からマークを受け取る
②佐呂間町産のジャンボかぼちゃ
③牧場
④サロマ湖展望台
(①③④は佐呂間町役場提供、②は港区提供)

北海道のオホーツク海側に位置する佐呂間町は人口約5200人。北側は日本三大湖のひとつ、サロマ湖に面しています。特産品は湖で養殖されるホタテ、そしてかぼちゃ。テンサイ(ビート)、小麦などの栽培や酪農も盛んです。

この町から8月下旬、1枚のはがきが届きました。地域の「かぼちゃ祭り」でベルマーク運動をPRするから、ポスターや説明書きなどがあれば教えてほしい、というものでした。差出人の山保浩之さんに聞くと、町の「ベルマーク協力隊」の代表とのこと。学校だけでなく町ぐるみでマークを収集しているといいます。



佐呂間町には小学校が3校、中学と高校が1校ずつありますが、マークは学校のほか、役場や図書館、公民館、スーパーにも回収箱を置いて収集、インク・トナーカートリッジ、テトラパックも各所で集めています。仕分け・集計は年2回、地元の佐呂間高校で実施。同校ボランティア委員会の生徒たちや協力隊、PTA、ライオンズクラブのメンバーらが作業します。点数はすべて佐呂間小に集約してベルマーク預金を貯め、お買いものも各校分をまとめて実施します。

15年近く前、少子化による再編で町内の学校数が減った際、残った学校のベルマーク活動は休止状態でした。活動が

盛んだった旧佐呂間幼稚園(現・佐呂間保育所)のPTAメンバーを中心に、これからも活動を続けたいとの思いが募り、話し合いを重ねた結果、町全体の問題としてPTA連合会でベルマークに取り組むことになりました。2009年に活動はスタート。翌年「ベルマーク協力隊」が結成されたそうです。

以来、少しずつ貯めたマークが10万点を超え、昨年、初めて「お買いもの」をしました。協力隊が中心になって各校の希望をとりまとめ、それぞれが欲しい備品を手に入れました。佐呂間小には本、佐呂間保育所には「やわらかおまごどセット」が届きました。活動を始めてか

ら10年目のことでした。



かぼちゃ祭りは、30年以上続く町の一番大きなお祭り、別名「シンデレラ夢祭り」。今年も9月7・8日に開かれました。8日は町社会福祉協議会による「ふれあい広場」が設営され、その出店の一角で、山保さんたち「ベルマーク協力隊」は看板を出して運動の仕組みを説明、マークの回収もしました。

「他のボランティア団体とも交流できて、新たな可能性を感じました」と山保さん。今後もベルマークについて「もっとたくさんの人に知ってもらいたい」と話しました。

労組でマーク集めて寄贈

損保ジャパン日本興亜労組中部分会

損害保険ジャパン日本興亜の労働組合中部分会が9月6日、ベルマーク4万7475.9点を寄贈しました。同社の中部本部が管轄する愛知・岐阜・三重3県の各部署で5月から7月までに集めたそうです。

中部分会委員長の大榎啓太さんと三重部会長の竹内慎之介さんがベルマーク財団を訪れ、マークを手渡しました。組合の会議で上京した足で立ち寄ってくれました。

分会内の地域貢献チームが、分会全体でのマークの収集を提案したことがきっかけで、収集活動が始まりました。

中部分会が働きかけた収集活動は今回が初めて。「組合員の関心はかなり高かったです。活動後に行ったアンケートでは、自宅で集めていたけれど、どこに寄付したらいいかわからなかった、といった声や、こんな商品にマークが付いていた、という反響がありました」と、竹内さんは手応えを話してくれました。

「私たちは保険会社。集めたマークは被災地のために使ってください。マークの収集は今後も続けていきたいです」と大榎さん。ありがとうございました。



財団職員にマークを手渡し大榎啓太さん(中)と竹内慎之介さん(右)

ヴァンフォーレ甲府でマーク回収イベント

ホームゲームで年1回、これで7年連続

サッカー J2 ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム恒例のベルマーク回収イベントが9月21日、山梨県甲府市小瀬の山梨中銀スタジアムでありました。ヴァンフォーレ甲府、スポンサーのはくばく、協賛会社あいおいニッセイ同和損保(ベルマーク番号92)山梨支店、地元代理店さいとうエージェンシーの4者が協力して2013年から実施しているイベントです。

毎年恒例のイベントとあってサポーターの間での認知度も高く、この日はナイトゲームなのに、スタジアム外周に設けられた「はくばくブース」のベルマークコーナー

には早くから長い列ができました。マークを5点以上持参すると、抽選ではくばく商品やヴァンフォーレグッズが当たり、50点以上なら先着順で記念品がもらえます。この日は500組近いサポーターがブースを訪れてくれました。

さいとうエージェンシーの齋藤健一さんは「今年もたくさんの方々からベルマークを持参していただいたので、とてもありがたいです。被災地の復興に繋がるので、ぜひこれからも続けていきたいと思っています」と話しました。

